



株式会社 山善 2008年3月期 中間決算説明会

2007年11月21日



株式会社 **山善**

AGENDA

1. 2008年3月期中間決算の概要
2. 2008年3月期の業績予想
3. 中期経営計画「GVP15」
4. コーポレート・ガバナンス
5. 株主還元

AGENDA

1. 2008年3月期中間決算の概要**2. 2008年3月期の業績予想****3. 中期経営計画「GVP15」****4. コーポレート・ガバナンス****5. 株主還元**

2007.05
山善親交会
60周年謝恩パーティを開催

当中間期の事業環境

➤ 底堅さは維持しているものの、拡大ペースはやや減速。

	事業セグメント	トレンド指標など	市場概況※	
1	生産財事業 ー国内	鋳工業生産指数 工作機械受注額 半導体製造装置受注額 自工会統計	国内設備投資のペースダウン、特に主要市場である自動車業界向けの設備需要がやや力強さに欠け、高水準を維持しつつも調整局面にある。	
2	消費財 ー住設建材事業	新設住宅着工戸数(戸建市場) キッチンバス出荷統計	6月までの建築基準法改正による駆け込み需要後、着工数は激減。分譲物件を中心に好立地物件の減少、価格上昇傾向で全体にマインド低下。	
3	消費財 ー家庭機器事業	消費性向 日本DIY協会統計	賃金回復力弱く、雇用回復などのプラス要素の影響が限定的。異常気象による販売トレンドの誤差が広がる。	
4	生産財事業 ー海外	各国鋳工業生産 同景気動向指数	米国での自動車関連業界は低迷が続くが、アジア・欧州における景気は依然拡大し、自動車関連・IT関連向けに設備投資は堅調に推移。	

※ 当社判断に基づく

2008年3月期中間期トピックス／業績ハイライト（連結）

- 連結範囲を拡大し、当社中国向けビジネスに関する情報を拡充。
- 福岡ビル譲渡による特損計上で当期純利益を下方修正。

◎ 経営資源の選択と集中で、テナント事業から完全撤退。 （単位：百万円、％）

	2006年9月	2007年9月	増減率	中間公表計画	
				期初	修正
売上高	185,275	186,008	0.4	190,000	187,000
売上総利益	20,638	21,456	4.0	—	—
販売管理費	14,899	15,944	7.0	—	—
営業利益	5,739	5,512	△3.9	6,000	5,600
経常利益	6,085	5,886	△3.3	6,200	6,000
特別利益	13	154	—	—	—
特別損失	10	2,435	—	—	—
当期純利益	3,607	2,243	△37.8	3,650	2,100

売上高と経常利益の推移(連結)

➤ 国内需要の高止まりで、事業収入は横這い。

単位：百万円 ()内累計値	FY	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	'06/3	79,464	86,394 (165,858)	86,943 (252,801)	88,984 (341,785)
	'07/3	89,580	95,695 (185,275)	98,259 (283,534)	94,076 (377,610)
	'08/3	90,144	95,864 (186,008)	— (—)	— (387,000)
経常利益	'06/3	2,106	2,583 (4,689)	2,565 (7,254)	2,582 (9,836)
	'07/3	2,642	3,443 (6,085)	3,522 (9,607)	3,306 (12,913)
	'08/3	2,680	3,206 (5,886)	— (—)	— (13,000)

部門別売上高実績(連結)

(単位:百万円、%)

部 門	2006年9月		2007年9月		増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
工 作 機 械 部 門	46,255	25.0	45,695	24.5	△1.2
産 業 シ ス テ ム 部 門	33,546	18.1	32,344	17.4	△3.6
機 械 工 具 部 門	32,308	17.4	32,529	17.5	0.7
システムエンジニアリング部門	5,667	3.1	5,178	2.8	△8.6
生 産 財 部 門 合 計	117,777	63.6	115,748	62.2	△1.7
住 設 建 材 部 門	25,303	13.7	25,253	13.6	△0.2
家 庭 機 器 部 門	22,415	12.1	21,698	11.7	△3.2
消 費 財 部 門 合 計	47,718	25.8	46,952	25.3	△1.6
国 際 営 業 部 門	17,572	9.5	20,913	11.2	19.0
そ の 他	2,206	1.1	2,393	1.3	8.5
合 計	185,275	100.0	186,008	100.0	0.4

部門別営業利益実績(連結)

(単位:百万円、%)	2007年9月		
	営業利益	利益率	構成比
工 作 機 械 部 門	1,510	3.3	27.4
産 業 シ ス テ ム 部 門	1,009	3.1	18.3
機 械 工 具 部 門	1,229	3.7	22.3
システムエンジニアリング部門	145	2.8	2.7
生 産 財 部 門 合 計	3,894	3.3	70.7
住 設 建 材 部 門	312	1.2	5.7
家 庭 機 器 部 門	420	1.9	7.6
消 費 財 部 門 合 計	732	1.6	13.3
国 際 営 業 部 門	719	3.4	13.0
そ の 他	165	6.9	3.0
合 計	5,512	3.0	100.0

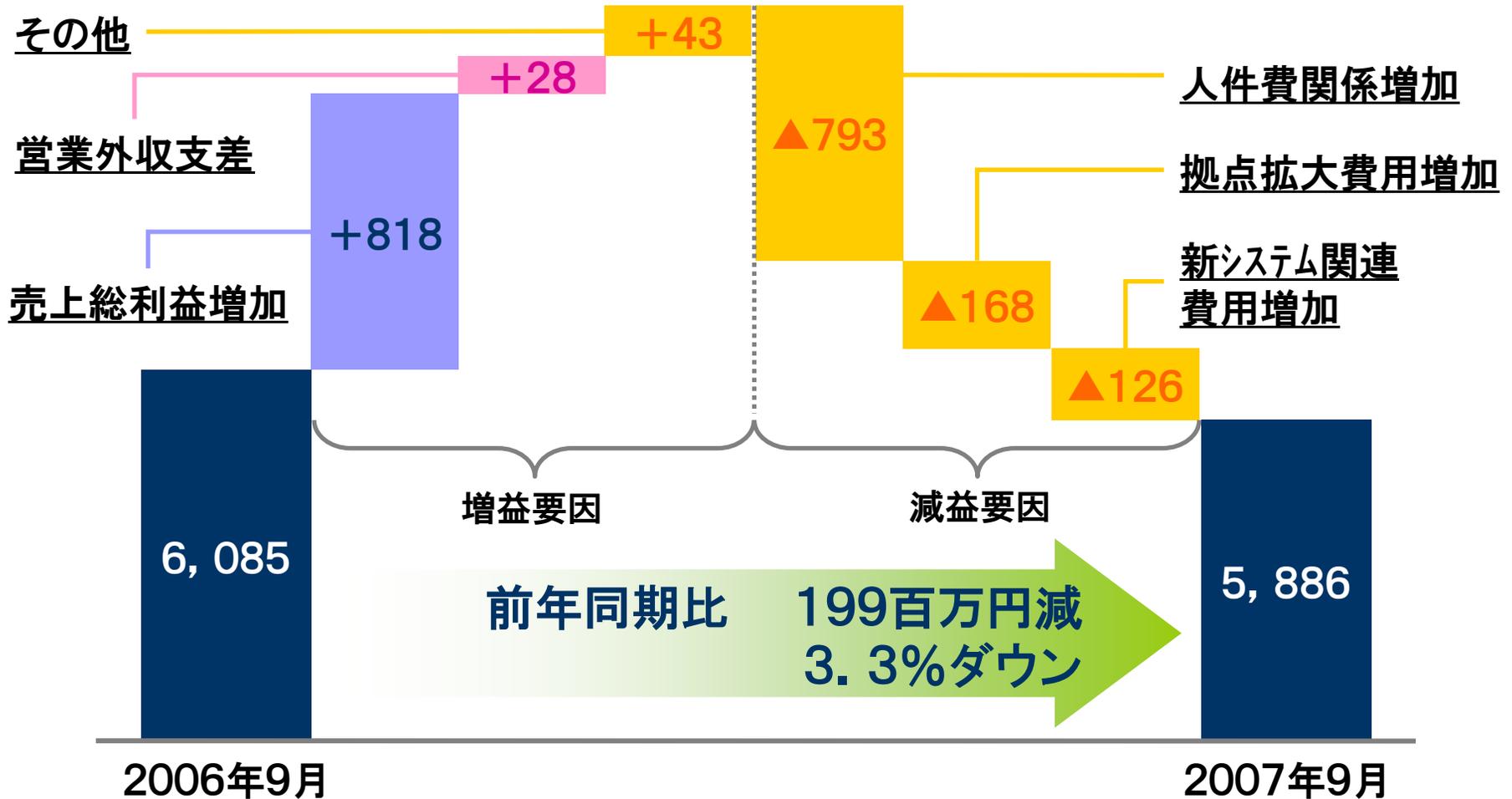
- 国内生産財部門は、売上高の若干減少も、総利益率改善等でほぼ前年並みを確保。
- 住設建材部門はシステム開発等、インフラへの投資先行の影響で減益。
- 家庭機器部門は、原材料高騰で、オリジナル商品の仕入価格が上昇し減益。
- 海外生産財(国際営業部門)は、売上高の大幅増収にともない、増益。

※ 注記:本データはあくまで当社内管理会計規則に基づいて算出した数値です。将来、制度開示する場合には計算方式が変わる可能性がありますので、予めご了承ください。

経常利益の増減要因

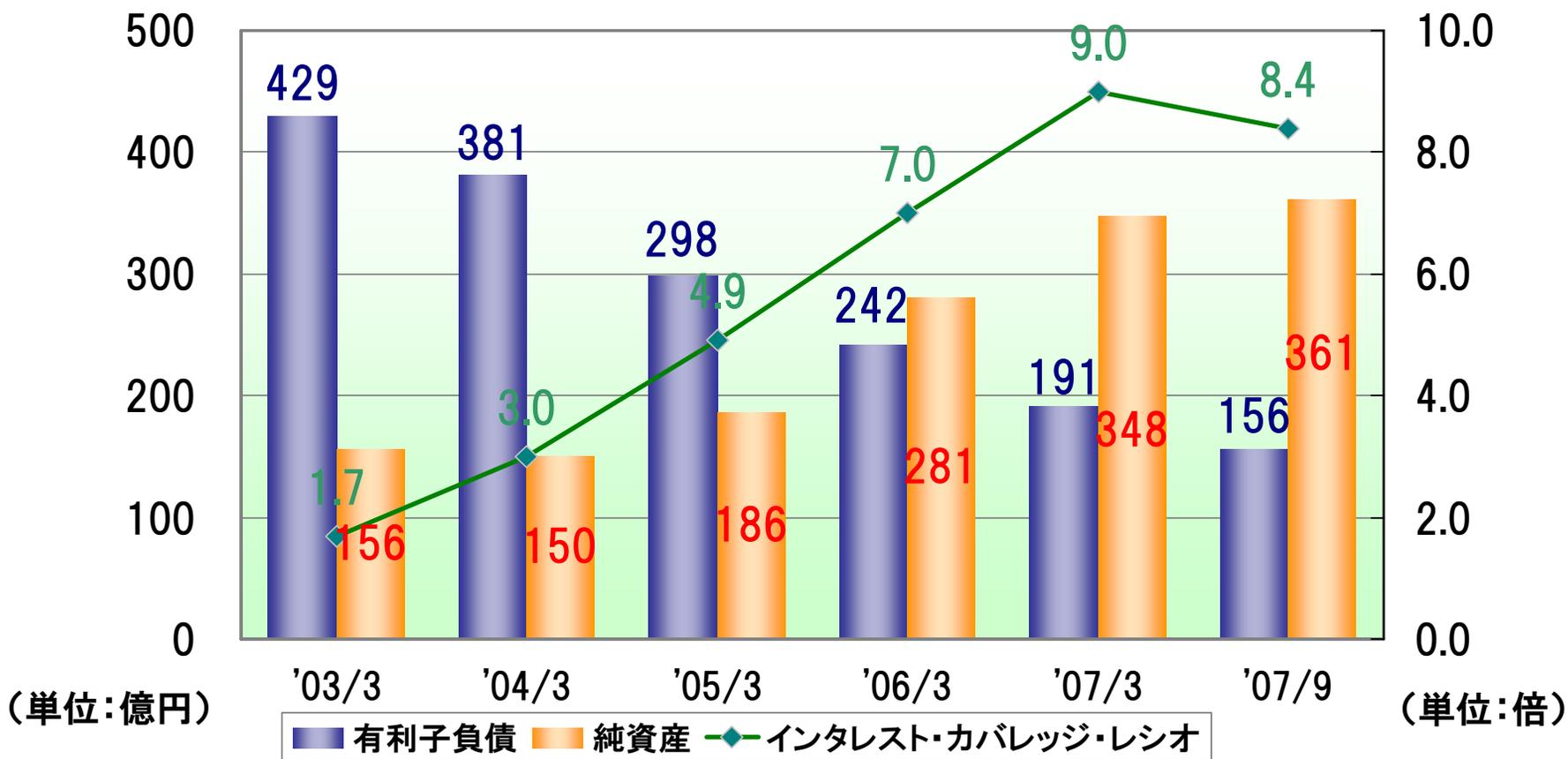
➤ 販管費増も、利益率向上などの改善効果で減益幅を緩和。

(単位:百万円)



財務の状況

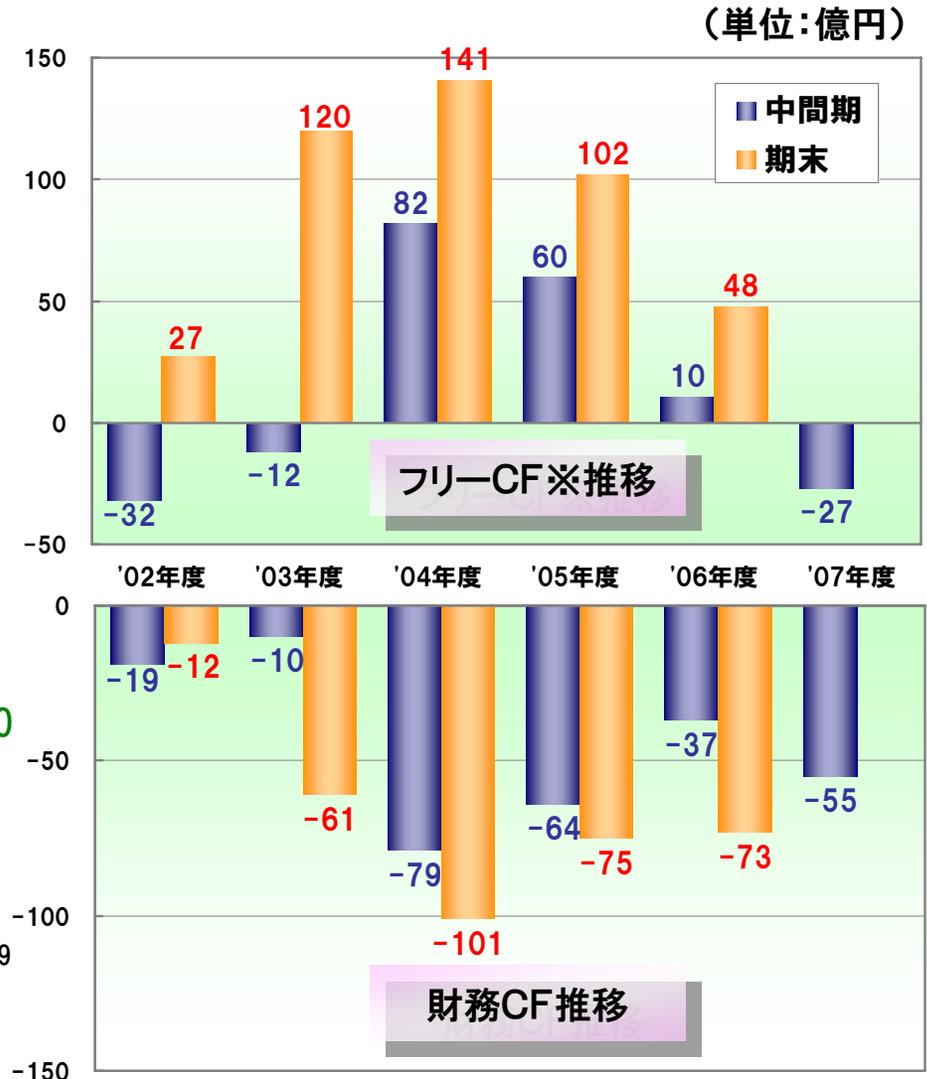
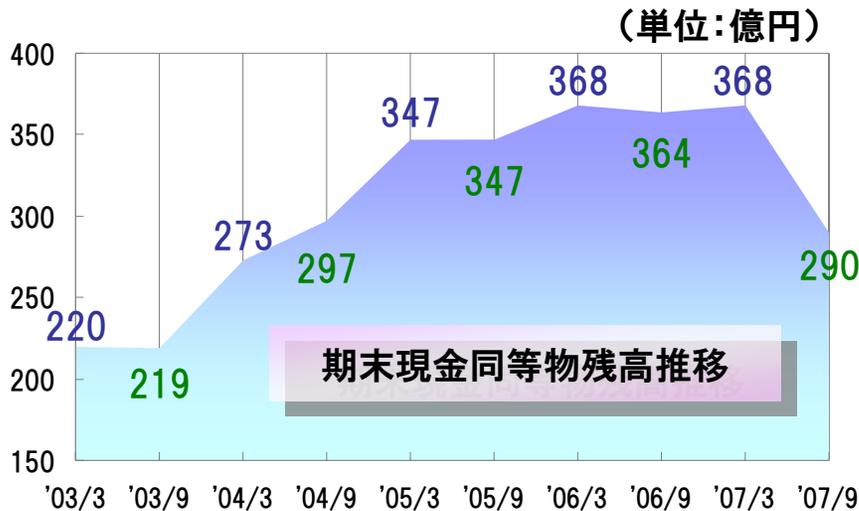
➤ 有利子負債の圧縮と純資産の充実は順調。



※インタレスト・カバレッジ・レシオ(損益ベース) = (営業利益 + 受取利息及び配当金) ÷ (支払利息及び割引料)

キャッシュ・フローの状況

- フリーキャッシュ・フローの赤字は一過性で、通期では黒字化する見通し。
- 手元流動性の活用で現金同等物残高を調整へ。



※フリーCF = 営業CF - 投資CF

AGENDA

1. 2008年3月期中間決算の概要

2. 2008年3月期の業績予想

3. 中期経営計画「GVP15」

4. コーポレート・ガバナンス

5. 株主還元

2007.09
ニッポン放送プレミアムシートに出演



事業環境の見通し

➤ 設備投資の回復見込むが、個人内需の改善は緩やかな見通し。

	事業セグメント	注視する指標など	市場環境の見通し※	
1	生産財事業 －国内	鋳工業生産指数 工作機械受注額 半導体製造装置受注額 自工会統計	2007年度全体の設備投資計画で高い伸びが見込まれており、上半期実績から一転し、製造業を中心に今後の持ち直しを期待。	
2	消費財事業 －住設建材	新設住宅着工戸数(戸建市場) キッチンバス出荷統計	上半期のトレンドが継続、好立地物件の減少、価格上昇傾向で先行き不透明な状況続く。	
3	消費財事業 －家庭機器	消費性向 日本DIY協会統計	企業収益が好調なことから、雇用改善や賃金回復に期待。大幅な改善は困難も、緩やかな回復基調を予測。	
4	生産財事業 －海外	各国鋳工業生産 同景気動向指数	米国景気は低成長ながら、安定的と予測。世界的にも安定期と判断。 中国二桁前後の成長見込み、周辺諸国の安定成長を予測。	

※ 当社判断に基づく

2008年3月期業績予想(連結)

- 中間期下方修正も、通期では(当期純利益を除き)期初計画の達成を見込む。

(単位:百万円、%)

科目	2007年3月期	(2007年9月)	2008年3月期	前期比 増減率	中間期 進捗率
売上高	377,610	186,008	387,000	2.5	48.0
営業利益	12,318	5,512	12,600	2.3	43.7
経常利益	12,913	5,886	13,000	0.7	45.2
当期純利益	7,506	2,243	6,100	△18.7	36.7

部門別売上高計画(連結)

(単位:百万円、%)

部 門	2007年3月期		2008年3月期		前期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
工 作 機 械 部 門	95,480	25.3	91,800	23.7	△3.9
産 業 シ ス テ ム 部 門	65,453	17.3	67,000	17.3	2.4
機 械 工 具 部 門	65,293	17.3	67,500	17.4	3.4
システムエンジニアリング部門	12,219	3.2	11,200	2.8	△8.3
生 産 財 部 門 合 計	238,447	63.2	237,500	61.3	△0.4
住 設 建 材 部 門	51,583	13.7	53,500	13.8	3.7
家 庭 機 器 部 門	47,049	12.4	48,400	12.5	2.9
消 費 財 部 門 合 計	98,633	26.1	101,900	26.3	3.3
国 際 営 業 部 門	36,256	9.6	43,300	11.1	19.4
そ の 他 部 門	4,273	1.1	4,300	1.1	0.6
合 計	377,610	100.0	387,000	100.0	2.5

AGENDA

1. 2008年3月期中間決算の概要

2. 2008年3月期の業績予想

3. 中期経営計画「GVP15」

4. コーポレート・ガバナンス

5. 株主還元

2007.03
YAMAZEN Inc.(USA)が40周年



中期的経営方針

- 持続的な利益成長を目指し、ステークホルダーの期待を超える満足と感動を！



中期3ヶ年経営計画「GVP15」



2010年3月期
までに

経常利益150億円を達成する
純資産150億円を積み増しする

GVP15 3ヶ年定量計画(連結／修正)

■ 損益計画

(単位:百万円)	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
売上高	377,610	387,000	400,000	415,000
営業利益	12,318	12,600	13,400	14,600
経常利益	12,913	13,000	13,800	15,000
当期純利益	7,506	6,100	7,900	8,550

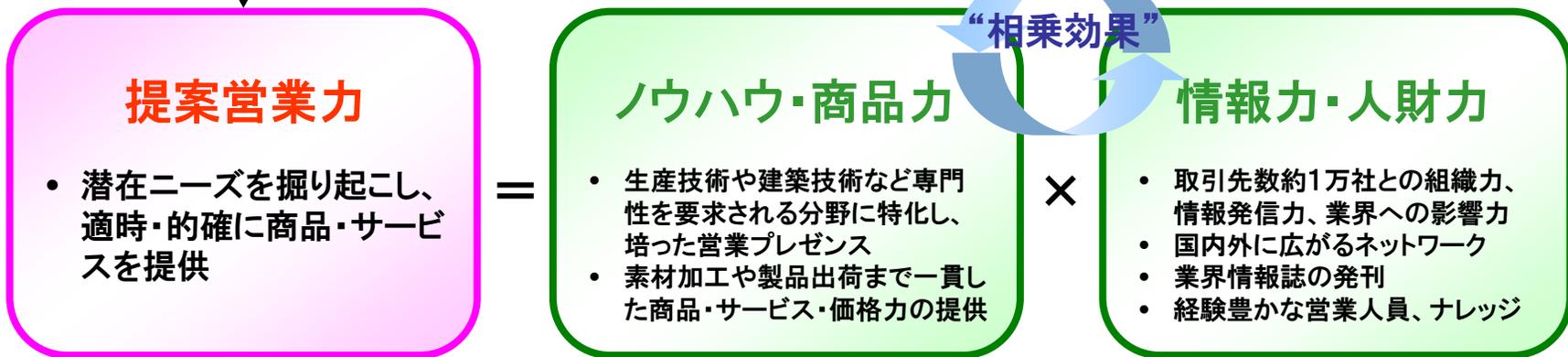
■ 主要財務指標

(単位:%)	2007年3月期	2007年9月現在	2010年3月期
売上高経常利益率	3.4	3.2	3.5
自己資本比率	18.3	20.0	25.0
総資産経常利益率	6.9	(3.2)	7.5

山善の強み

■ コアコンピタンス(競争の源泉)は、「提案営業(ソリューション)力」。

- 生産(技術)現場での困りごと(困っているだろうこと)
- 家作りでの困りごと(困っているだろうこと)
- 売り場での困りごと(改善したいだろうこと) etc

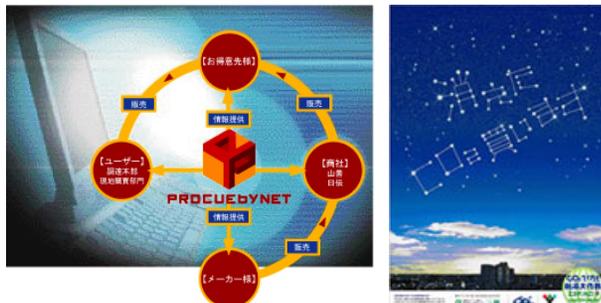


<提案例>

- 情報が結合する「場」の提供による解決



- 業務支援(機能)による解決
- 新規性ある企画による解決



- 多メーカー商品組合せによる解決
- オリジナル商品開発による解決



今後の取り組み①(生産財)

- 国内: 工作機械販売をはじめ、生産財各分野でシェアNo1を目指す。ITを駆使した生産性向上(効率化)で、深みのある提案営業を推進する。
 - ⇒ 用途別専門展示会による潜在需要の喚起
 - ⇒ 多店舗展開店のインスタシェア向上
 - ⇒ 電子商取引(プロキュバイネット)の拡大
- 海外: きめ細かなユーザー管理とエンジニアリング機能+サービス拡充で、各国で存在感あるグローバル※会社を目指す。
 - ⇒ サービス拠点の増設
 - ⇒ 国際展示会への出展拡大とオープンハウスの開催



PROCUEBYNET



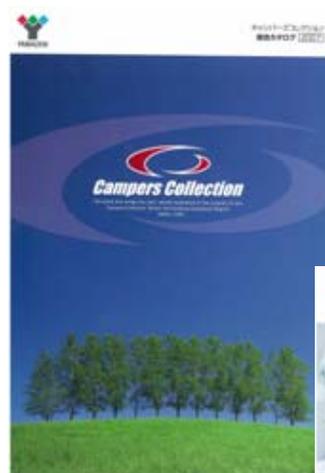
※グローバル&ローカル: ビジネスのボーダレス化に対応しつつも、地域に密着した事業展開を行う意

今後の取り組み②(消費財)

- 既存需要の確保や都市部マーケットの掘り起こし、新規商材の投下により「市場／店内シェア向上」を目指す。
 - ⇒ オール電化や環境関連機器等への取り組みを強化
 - ⇒ 「安全」「安心」「信頼」でワンランクアップのオリジナル商品づくり
 - ⇒ 暮らしのeショップ～ネット通販(BtoC)の拡大



iENOGU



Priom



中国市場の拡大

➤ 重点戦略地域として人的・物的投資を拡大中。

- 現況、工作機械需要を中心に拡大基調が継続。周辺諸国を含め、域内交流も活性化。
- 成都、無錫、煙台の3ヶ所にサテライトオフィスを開設。



■ 中国向け取扱高の状況

(単位:百万円)	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2007年9月中間
中国現地法人3社	5, 772	6, 159	8, 263	4, 912
台湾現地法人	2, 654	3, 673	3, 709	3, 930
シンガポール・韓国	214	106	287	106
合計	8, 640	9, 938	12, 259	8, 948

エコブランドキャンペーン

➤ 環境ビジネス分野での競争優位性を確保する取り組みを拡充中。

- ⇒ 2005年度より『Eco-BRANDキャンペーン』と称し、特定の環境優良商品について、その販売に応じて得られるCO₂の削減量にインセンティブを支払う企業活動を展開中。
- ⇒ また、この10月、当社主力仕入先を集め、最もCO₂削減効率の高い太陽光発電(特に工場向け)の提案会を実施。販売先・仕入先をあわせたサプライチェーン展開を目指す。



※本年度削減進捗状況(9月末現在/いずれも設置完了分)

区分	目標削減量	削減量累計	進捗率
工場分野	15,000t _↓	2,017t _↓	13.3%
民生分野	15,000t _↓	6,470t _↓	43.1%
合計	30,000t _↓	8,487t _↓	28.3%

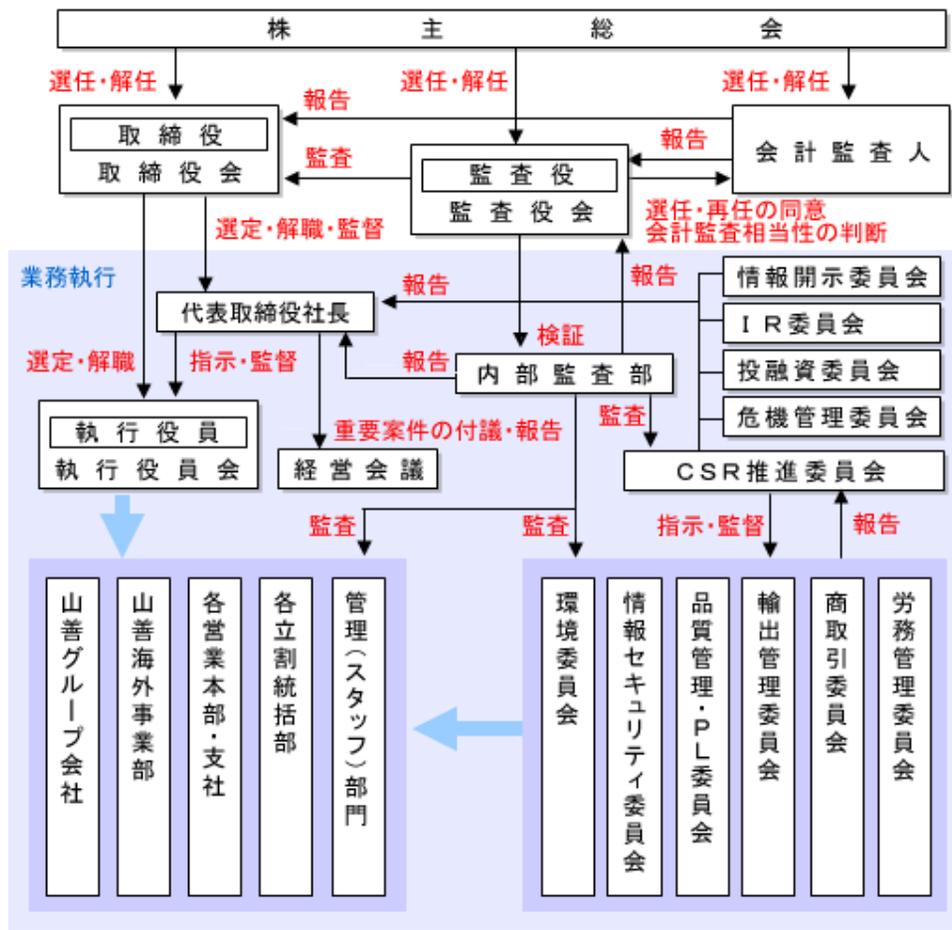
AGENDA

1. 2008年3月期中間決算の概要
2. 2008年3月期の業績予想
3. 中期経営計画「GVP15」
4. コーポレート・ガバナンス
5. 株主還元

コーポレートガバナンスの考え方

- 社会規範や倫理順守などの企業責任(CSR)を全うしていくことで、企業ブランドの向上、持続的で安定的な利益成長を目指す。

⇒ リスクマネジメントとして、CSR課題への取り組みを強化・推進。



経営理念・自主自律の考勤指針・社是・山善グループ企業行動憲章

コーポレートガバナンスの取り組み状況

- J-SOX適用年度に向けた内部統制の整備・改善は計画通り進行中。

内部統制プロジェクト

内部統制システム構築

マニュアル等の再整備、
社内監視体制を構築中

輸出管理委員会

輸出管理体制充実

海外現地スタッフ向けの
教育を実施

品質管理PL委員会

品質管理体制整備

商品開発マニュアル順守、
コールセンターの拡充等を実施

情報セキュリティ委員会

情報セキュリティ強化

全社員にICチップ社員証を配布、
物理的セキュリティ環境を整備

AGENDA

1. 2008年3月期中間決算の概要
2. 2008年3月期の業績予想
3. 中期経営計画「GVP15」
4. コーポレート・ガバナンス
5. 株主還元

株主還元

□ 基本的な考え方

△財務体質と中長期的な経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆様へ安定的かつ業績に応じた適正な利益還元を行うこととしていきます。

□ 配当政策について

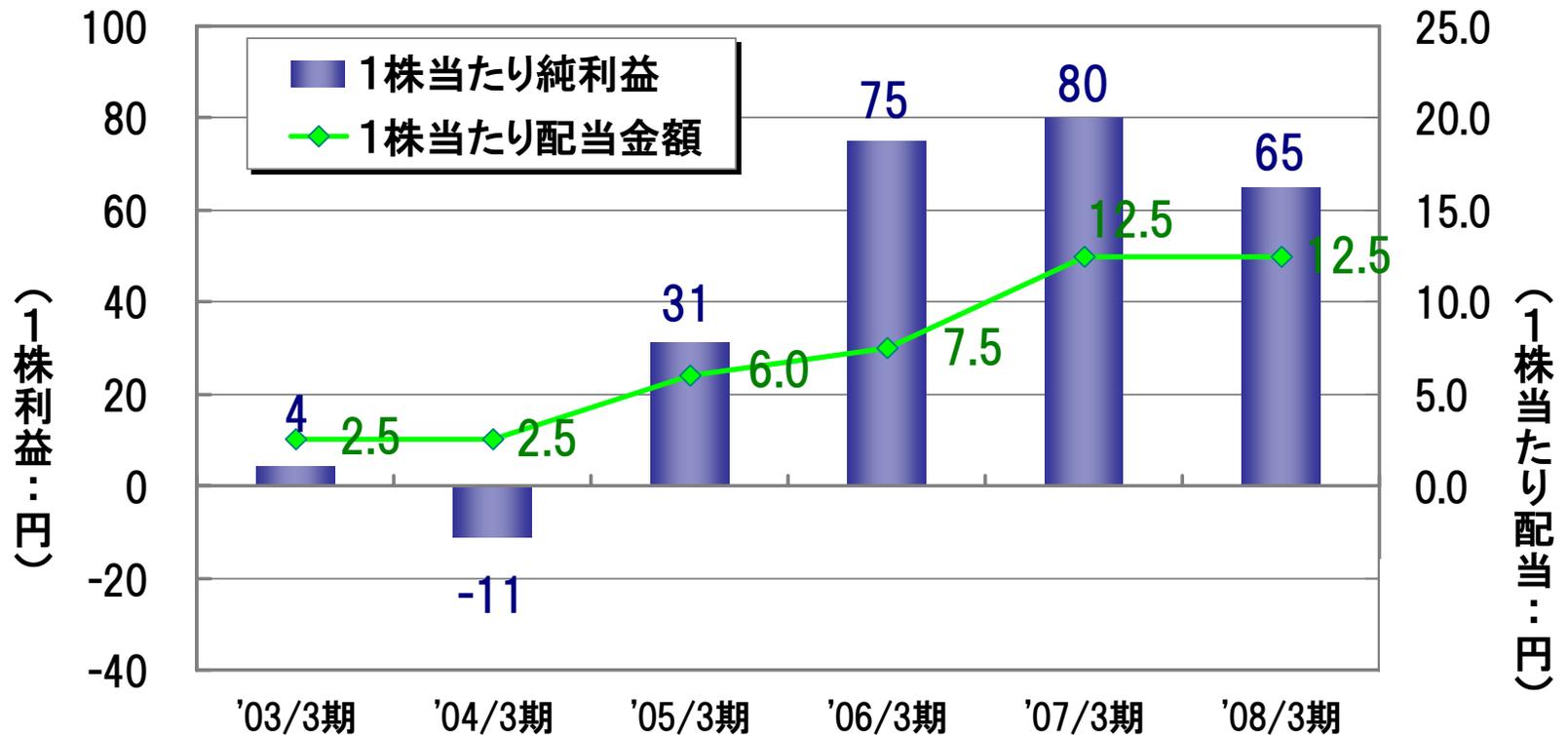
△1株当り年間配当金10円を下限としつつ、連結配当性向は15%以上を目標とし、利益成長に応じて更なる利益還元に努めます。

※配当金の推移

	'03/3期	'04/3期	'05/3期	'06/3期	'07/3期
連結配当性向	54.8%	—	19.3%	10.0%	15.6%
配当金額	2.5円	2.5円	6.0円	7.5円	12.5円

当期の配当

- 本年度より中間配当を実施(12月11日支払開始予定)。
- 連結配当性向:19.2%を予定。
- 配当金額:中間5.0円/期末7.5円=年間12.5円を予定。



お問合せ先

その他、弊社IRに関するご質問につきましては、
弊社ホームページ(<http://www.yamazen.co.jp/>) の「お問い合わせフォーム(IR)」を
ご利用ください。



この資料には、当社の計画及び業績見通し等が含まれております。将来の計画や予想数値などは、現状の入手可能な情報により、計画・予測したものであります。実際の業績等は、今後の様々な条件・要素によりこの計画等とは異なる場合があります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。